悠ゆう楽々

信に生きて

京都仏教文化フォーラム主宰

福井 文雄さん（57）

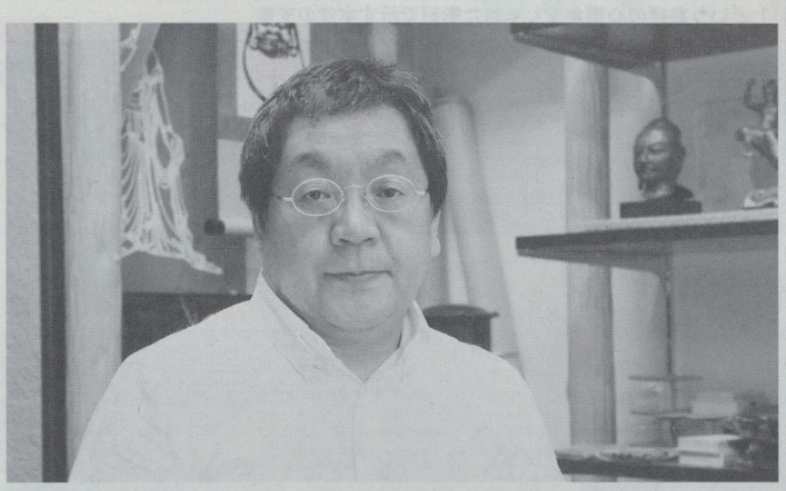
市民と仏教つなぐ役
寺は情報発信が必要

京都を拠点に新聞・雑誌・動画から放送番組まで広範囲にメディア制作を手掛け、地域ラジオ局やインターネット放送局を立ち上げた福井文雄さん（57）。日本の「市民メディア」創生期を支えた仕掛け人として、「寺院はより一層の情報発信が必要」と訴える。

「メディアは媒介という意味ですが、人の思いをコンテンツにして誰かに届けることです」

福井さんは1980年代当初からペーパーメディアに関わり始め、その後、コンピューター・ITを担当。ビデオからテレビ・ラジオ番組制作まで、広報分野で育った。

「"Windows 95"が95年に発売され、インターネットメディアの時代が到来したが、私はマスメディアに独占された媒介力を市民に取り戻す運動に取り組んだ。今はソーシャルメディアの時代。個人や地域が大きな発信力を持つ可能性が広がる。日本の仏教界も挑戦してほしい」と思いを語る。



メディアと自身の歩みを振り返る福井さん

金沢市の出身。両親は真宗大谷派の僧侶で、父は大谷派金沢別院に奉職しながら石川県宗教連盟事務局長を務めた。福井さん自身は大谷大仏教学科を卒業し、僧侶になるはずが事情があって、卒業と同時に京都の医師団体に就職。広報担当として17年間勤務し、40歳でメディア制作会社を起業した。

「医師団体で仕事をしながらも、日本仏教のために何かしたいとの思いは強かった。30代にその思いが爆発。（真言密教研究の）宮坂宥勝先生の本は学生時代から読んでいたが、30代初めにインド仏跡の旅で先生に同行した時は本当にうれしかった。智山派管長時代には出版のお手伝いもした」と振り返る。

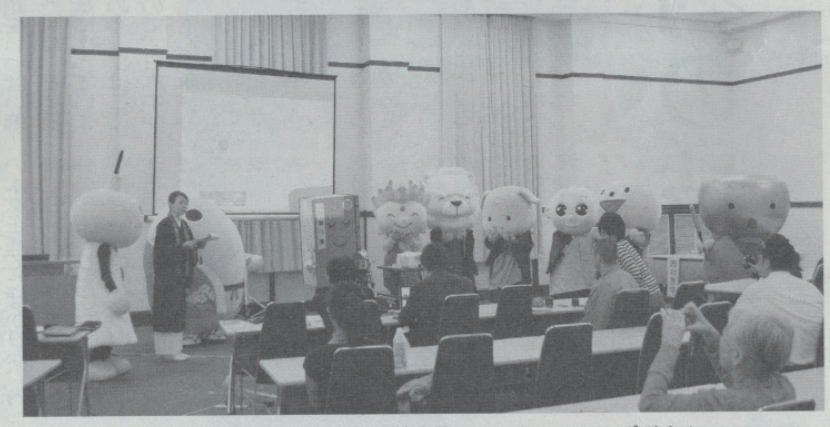
30代後半には寺報研究所を作り「薄伽梵（ばがぼん）」というフリーペーパーを京都の超宗派の僧侶仲間と発行。起業した会社を拠点に地元放送局で番組制作をする一方、市民がスポンサーとなって番組を作る運動に取り組み、日本初といわれた市民提供番組を放送した。

さらに日本で初めてNPOが放送免許を取得して運営する地域FMラジオ局「京都三条ラジオカフェ（NPO京都コミュニティ放送）」を設立し、支援会社の代表として開局を支えた。

また、地域のインターネット放送局の立ち上げや人材育成、大学での講座も担当。現在は佛教大でメディア制作講座の非常勤講師を務める。

福井さんが数年前から主宰するのが、仏教と社会をつなぐプロジェクト「京都仏教文化フォーラム」だ。「仏教文化とコンピューティング」をテーマとしたシンポジウムや、江里康慧氏をはじめ4人の仏師を招いてのシンポなどを開催。昨年は現代社会に広く仏教文化を広めるユニークな取り組み「京都仏教芸能祭」も開いた。次に何が出てくるのかが楽しみだ。

（髙橋知行）



京都大を会場にした京都仏教文化フォーラムのシンポジウムには各宗派のキャラクターがそろった（2011年）

ニュースの言葉

グループホーム

病気や障害などによって一般的な生活が困難となった人が、地域の中で専門スタッフの援助を受けながら、少人数（平均5人）で共同生活を営む住まいの場。入居者の能力に応じてそれぞれが料理や掃除などの役割を担う。家庭的な雰囲気の中、自宅のように過ごせるのが特徴で、認知症化を遅らせる効果があるとされる。

2000年に施行された介護保険法により、介護サービスの給付を利用できるようになったため、各地で急速に普及が進んでいる。日本では「認知症高齢者グループホーム」を指すことが多いが、他にも「知的障害者グループホーム」などがある。

真言宗醍醐派総本山醍醐寺は、10月から境内地にグループホームを開設する。同寺のように地域への貢献を目的に、グループホームを活用する宗教者は増えつつある。